

ウォールスタット普及セミナー

ウォールスタットとCADの連携解説

耐震性能見える化協会

耐震性能見える化協会(奈良県吉野郡、中川貴文代表理事)は16日、オンラインで「ウォールスタット普及セ

ミナーへCADメーカー編」を開いた。プレカットCAD及び意匠CADとウォールスタットの連携機能と操作に関するセミナーで、福井コンピュータアーキテクト(福井県坂井市、田辺竜太社長)、宮川工機(愛知県豊橋市、宮川嘉隆社長)、ネットイーグル(福岡市、祖父江久好社長)が、自社のCADソフトを用いたウォールスタットとの連携について解説した。福井コンピュータアーキテクトは「AR C

HITREND ZERO」による意匠設計段階と伏図からの連携について解説。各段階でのウォールスタットとの連携により、意匠設計での合理性向上や施主説明に役立つ。宮川工機はプレカットCAD「MPICAD8」で扱うパッケージ「極」と「要」による連携事例を紹介。また今後の連携機能への期待として、水平構面や制振壁の連携、太陽光パネルなど追加積載荷重の連携を挙げた。ネットイーグルは、木軸プレカットCAD「XSTAR」、非住宅・中大型木造建築向けプレカットCAD

「XF15」、2×4CAD「XF24」を用いて、非住宅木造建築におけるウォールスタット倒壊解析シミュレーションの有効性を示した。講演した各社がキーワードとしたのが、2025年をめどに施行予定の4号特例縮小だ。中川代表理事は「CADの役割はますます大きくなる。BIMの普及も国が進めており、CADとの連携が重要になってくる」と総括した。